

関東地方整備局 ハッ場ダム建設事業

施工が「見えるダム」総合力を結集

ダムは新たな観光資源

国土交通省関東地方整備局が整備を進めているハッ場ダム建設事業のダム本体建設工事は現在、本体基礎部分の掘削を実施しており、2016年6月からコンクリートの打設を開始する予定だ。19年度までの完成を目指す。同ダムは堤高116m、堤頂長291m、総貯水容量1億0,750万立方メートルを擁する重力式コンクリートダム。品質確保と安全管理に万全を期して地域振興の観点も重視しながら、ダム土工開始から本体打設完了までダム建設に残る高速施工での完成を目指す。施工は清水・鉄建・IHI異工種建設工事共同企業体が担当している。

国土交通省関東地方整備局が整備を進めているハッ場ダム建設事業のダム本体建設工事は現在、本体基礎部分の掘削を実施しており、2016年6月からコンクリートの打設を開始する予定だ。19年度までの完成を目指す。同ダムは堤高116m、堤頂長291m、総貯水容量1億0,750万立方メートルを擁する重力式コンクリートダム。品質確保と安全管理に万全を期して地域振興の観点も重視しながら、ダム土工開始から本体打設完了までダム建設に残る高速施工での完成を目指す。施工は清水・鉄建・IHI異工種建設工事共同企業体が担当している。



ダム建設地全景(10月26日撮影)

ハッ場ダム本体建設工事は、総合評価方式の技術提案チームとなった「施工日数の短縮」が焦点の一つ。清水・鉄建・IHI異工種建設工事JVの高力雅人所長は「工程設計が最大の目標」と話す。このため、急峻な地形への対応(右岸切出し位置への重機・バレット道路取付、左岸天端への骨材輸送バレットコンベヤー設置など)や、原山山からダム堤体まで約10kmあるヘルコンの管理・メンテナンスなど、「さまざまな課題に解決に当たる」と力を込める。技術的には、巡航RCD工法、長距離ヘルコンの採用、規模に余裕を持った仮設設備の導入などにより、工程を厳守する。来年度から開始する予定の本体コンクリート打設に向け、掘削が進んでおり、「ダムの安定性と漏水防止を確保する」ため、土台となる基礎岩盤の品質確保(断層処理、岩盤清浄、浮石除去など)や岩質コンクリートの打ち込み、基礎処理(クラウチング)の品質確保などを念頭に「施工方法を方針」として掲げている。



こうした技術を支える安全管理にも力を注ぐ。「とにかく現場をよく見て声掛けすること、リスクを減らす工夫が大事」と、清水建設の「三現主義(現場で現物を現実に見る)を基本に、『安全のABC(当たり前のことを馬鹿にせず、ちゃんとやる)』の実践、迅速な『報連相(報告・連絡・相談)』を現場に浸透させている。また、考えられるリスクを穴の空

巡航RCD工法の採用で施工日数短縮



原山山・骨材コンクリート(10月26日撮影)

本体右岸掘削(10月26日撮影)

本体左岸掘削(10月26日撮影)



国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム工事事務所長 矢崎 剛吉

計画から60年余、地域発展に貢献

これまでハッ場ダム建設事業では、鉄道、国道等の付帯工事と並行して、水没関係住民の皆さまの生活再建の要である移転代替地の整備を各地域の皆さまにご苦勞をおかけしてきた。その60年余にもわたる歴史を経て、地域の皆さまのご理解と協力をいただきながら事業を着実に進めてきた。これまでの長きにわたる地域の皆さまのご苦勞を踏まえ、ハッ場ダムが多目的ダムとしての機能以外にも地域振興の一翼を担い、地域のさらなる発展をもたらすことができる事業を進めていきたいと考えている。

付帯 国道付帯はそれぞれ2014年に運用を開始。11年に供用を開始。県道付帯も14年度末までに約92%の区間が供用開始している。また、移転代替地は07年度より分譲手続を開始し、14年度末までに86世帯の皆さまが移転され、新たな暮らしを始められ、開始する予定である。今後、ハッ場ダムが多目的ダムとしての機能を長く維持するため、品質の良い構造物として、完成を目指し受発注者間が良好な関係を築き、あらゆる面で品質管理を徹底していきたいと考えている。ハッ場ダム建設事業が引き継ぎ地域の

連工事を鋭意進めているが、移転代替地の整備が進み、新たな生活環境が形成される中、ダム事業も終盤を迎え、関連地域の発展に向け着実な地域振興対策が必要となってきた。ハッ場ダム周辺には川原湯温泉や名勝吾妻峯、草津温泉などがあり、これらの観光資源を有効に生かし、人を呼び込むことで地域振興に役立つことも重要な考え、現存する見学会や自由見学の場を見学会や自由見学の場を充実させていく。今後とも、地域の皆さまを始め、下流郡県などのご理解とご協力のもと、長野原町、東吾妻町および群馬県と緊密な連携を図りつつ19年度までの完成に向け、事務所一丸となって事業を進めていきたいと考えている。

やんば魅どころ満載



やんばウォーク(10月25日)。多くの参加者が本体建設工事の現場を体感

矢崎剛吉ハッ場ダム工事事務所長は「まず見て感じてほしい」と思いを込める。10月25日に開いた第1回やんばウォークでは約200人の参加者が本体建設工事の現場などを含む約10kmのコースを歩き、「やんば」を体感した。参加希望者による現場見学会も実施しており、好評を博している。

ハッ場ダム本体建設工事 清水・鉄建・IHI異工種建設工事共同企業体

清水建設株式会社

取締役社長 宮本 洋一

東京都中央区京橋 2-16-1 電話(03)3561-1111

鉄建建設株式会社

代表取締役社長 林 康雄

東京都千代田区三崎町 2-5-3 電話(03)3221-2152

IHI Realize your dreams 株式会社 IHIインフラシステム

代表取締役社長 井上 明

大阪府堺市堺区大浜西町 3 電話(072)223-0981